

大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書



1 9 9 1 . 3

大阪狭山市教育委員会

はしがき

大阪狭山市内には、史跡名勝狭山池をはじめとする多くの文化財があります。最近では、中世の城館跡である、池尻城跡が発掘され多くの人々の注目をあびました。ところが、これまで農村地帯であった本市内においても、近年急速に開発がすすめられ、埋蔵文化財に対する緊急調査の必要性が増してきました。大阪狭山市教育委員会では、このような状況に対処するため、本年度より国、大阪府の補助金を受け、本格的に個人住宅の建築に先立つ埋蔵文化財の調査を開始いたしました。今年度は池尻城跡、狹山神社遺跡などで調査を実施し多くの成果をあげることができました。

今回の調査にあたっては、建築主の皆様や、調査地周辺の皆様に多くの協力をたまわりました。厚くお礼を申し上げるとともに、今後とも文化財保護に一層のご支援をお願い申し上げます。

1991年3月

大阪狭山市教育委員会

教育長 上谷三郎

例　　言

1. 本書は大阪狭山市教育委員会が平成2年度国庫補助事業として、実施した大阪狭山市内所在の埋蔵文化財の緊急発掘調査の概要報告書である。調査は平成2年4月2日から、平成3年3月30日まで行ったが、本書に報告し得たのは平成3年3月初旬までの調査結果である。それ以後実施した調査の結果については来年度の報告書において報告することとしたい。
2. 調査は大阪狭山市教育委員会社会教育課市川秀之を担当者として実施した。調査にあたっては若宮美佐、桜淵繁太郎、井穴俊一、高林正男氏をはじめとした諸氏の参加、協力を得た。また地形分類図については、豊田兼典先生（大阪府科学教育センター指導主事）の作成されたものを利用させていただいた。記して謝意を表する次第である。
3. 本書の執筆、編集は市川が行った。

目 次

はしがき 大阪狭山市教育委員会教育長 上谷三郎
例 言

| | |
|----------|---|
| 1.はじめに | 3 |
| 2.池尻城跡 | 3 |
| 3.東野庵寺 | 6 |
| 4.狹山神社遺跡 | 7 |
| 5.茱萸木北遺跡 | 7 |
| 6.まとめ | 9 |

挿図目次

| | |
|----------------------------------|---|
| 図1 大阪狭山市内遺跡分布図 | 1 |
| 図2 大阪狭山市内地形分類図 | 2 |
| 図3 調査地位置図（池尻城跡） | 4 |
| 図4 池尻城跡 90-1区、90-2区、90-3区平面図・断面図 | 5 |
| 図5 調査地位置図（東野庵寺、狹山神社遺跡） | 6 |
| 図6 茱萸木北遺跡 90-1区 90-2区 平面図・断面図 | 8 |
| 図7 調査地位置図（茱萸木北遺跡） | 8 |

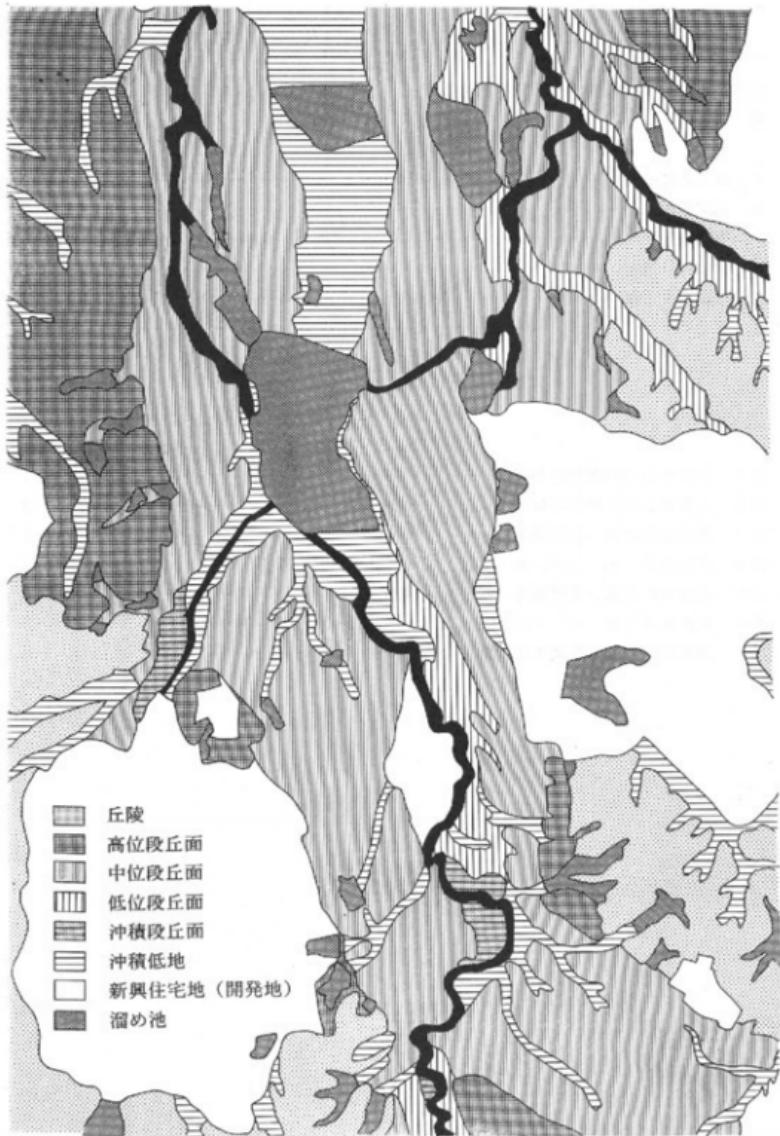


図1、大阪狭山市内地形分類図（豊田兼典氏作成）

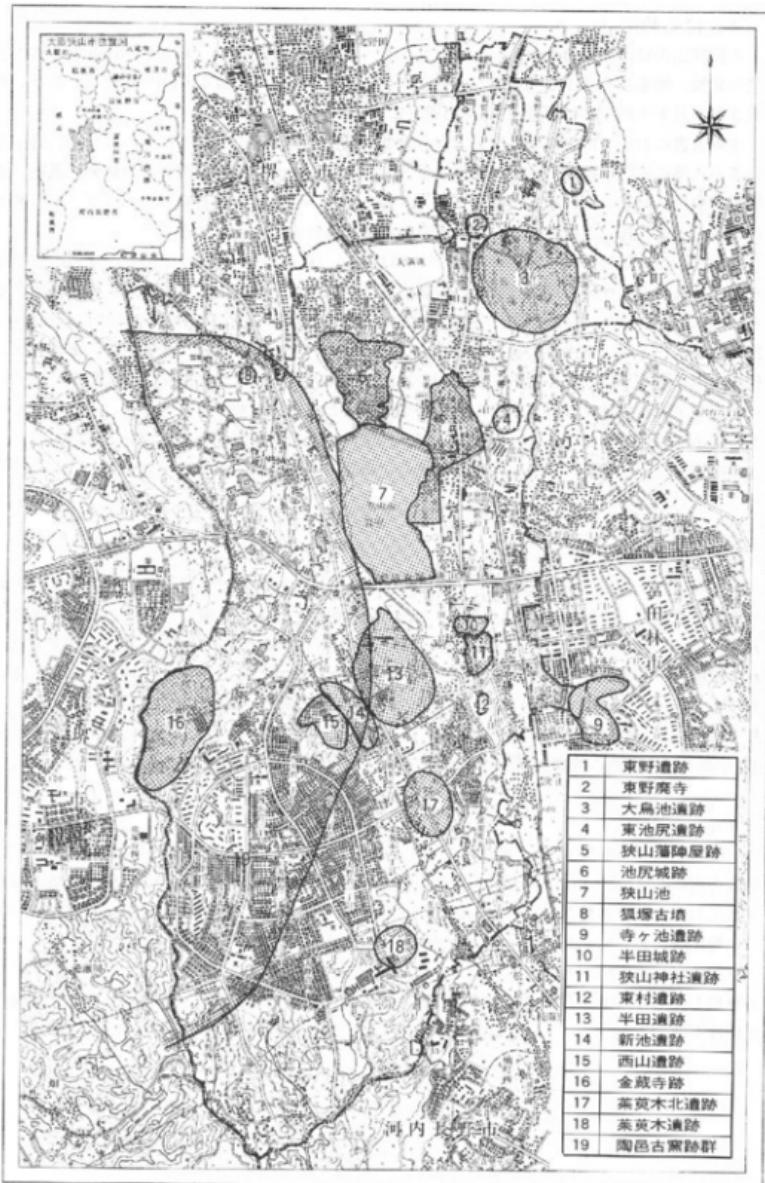


図2、大阪狭山市内遺跡分布図

1. はじめに

大阪狭山市は、大阪市等のベットタウンとしての都市機能を持つため、ことに近年、個人住宅の新築、増築がめざましく増加している。この傾向は平成2年度もやはり継続しており、平成3年1月末で約120件の発掘届が提出されている。

本報告書においては平成2年度、本市教育委員会が発掘調査を実施したもののうち、個人住宅等の建築に先立つ調査の結果を報告することとする。ただし立会調査等の結果、遺物、遺構等が検出されなかった例も多数あるが、これらについては報告を省略した。以下、市内遺跡の概要を述べた後、遺跡ごとに今年度調査の結果を報告することとする。

大阪狭山市の遺跡分布、地形分類については図1、図2に示した通りである。本市の西半分を占める高位段丘には古墳時代に多くの須恵器窯が築かれている。6世紀以降、須恵器窯はさらに低地の谷地形や、段丘崖を利用して築かれるようになる。また狭山池周辺の中位段丘面は、狭山のひとつとの主な生活の場となったところであり、狭山神社遺跡、池尻城跡、東野廃寺、狭山藩陣屋跡など古代から近世にかけての遺跡が分布している。また西除川（天野川）にそった市内中央部の低地には日本最古の灌漑用溜池といわれる狭山池が存在するが、そのほかには遺跡はあまり確認されていない。現在、個人住宅その他の開発が進められているのは、中位段丘面を中心とする地域であり、今年度実施した調査もこの地域に集中している。

2. 池尻城址

(90-1区)

大阪狭山市大字池尻538-15所在。昭和60年度に、大阪府教育委員会が調査し、重の空堀や多数の柱穴などを検出した地点から、西へ100m程のところに位置している。建築計画にあわせて6.0m×3.6mの調査区を設定して、人力掘削を行なった。その結果、最近の盛土と思われる暗灰色シルト及びその下の暗茶灰色シルトをはがしたところで、茶灰色細砂からなる面において、いくつか遺構を検出した。遺構は3本の溝で、溝1は調査区内において長さ0.6m、最大幅0.7m、溝2は長さ2.9m、最大幅1.2m、溝3は調査区内において長さ1.2m、最大幅0.9mを測る。その他の遺構は検出されなかった。また時期を決定する遺物は出土していない。

(90-2区)

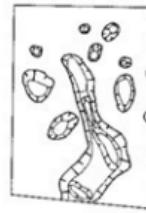
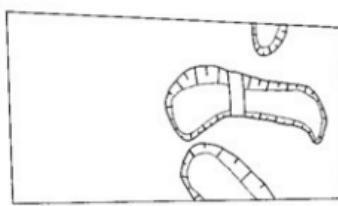
大阪狭山市大字池尻303-1所在。四天王寺から高野山へと向う下高野街道に西接している。南北方向に3.5m×2.8mの調査区を設定し人力掘削を実施した。比較的近年に何回か盛土が施されており、現状地盤から70~80cm下がったところで、茶褐色粘土からなる地山を検出した。この地山層において、長さ2.8m、最大幅0.8mの溝と、それをとりかこむように分布している10個のピットを検出している。盛土中から須恵器片、陶器片などが出土しているが、いずれも移動したものであろう。遺構面からは遺物は出土しておらず、調査区が狭かったため遺構の性格は不明である。

(90-3区)

大阪狭山市大字池尻215-2所在。西池尻の旧地区内に所在する。7m×8mの正方形に近い調査区を設定し、調査を実施した。現場はかって畠であったようでその後宅地とするために整地を行なっている。その下の暗灰褐色砂疊層をはがしたところで一応遺構面と思われる面を検出した。この面は調査区の南東において約30cmほど掘り下げられている。これは水田形成にともなう掘削と考えられる



図3、調査位置図 (池尻城跡)



T.P
← 79.5m



- ① 暗灰色シルト
- ② 暗茶灰色シルト
- ③ 茶灰色細砂(礫を多く含む)
- ④ 茶色粘土(礫を含む)

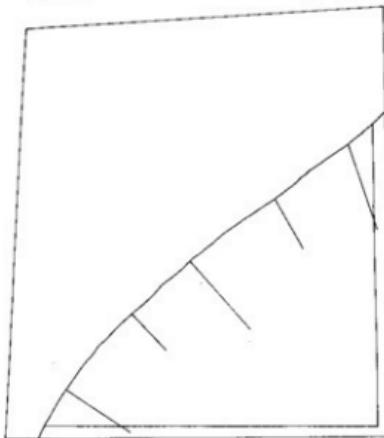
90-1区

T.P
77.5m



- ① 暗灰色シルト
- ② 茶灰色シルト
- ③ 黄褐色粘土

90-2区



- ① 淡灰色シルト(整地層)
- ② 灰褐色シルト(畑、耕作土)
- ③ 暗灰褐色砂礫土
- ④ 暗灰黄色砂質土

90-3区



図4、池尻城跡 90-1区、90-2区、90-3区 平面図 断面図

3. 東野廃寺

(90-1区)

大阪狭山市東野中2-989他所在。調査地は蓮光寺に南接する水田である。蓮光寺は白鳳期創建の寺院である東野廃寺の故地に建立している。東野廃寺については、戦前に藤野勝彌氏による研究があり、また出土する瓦については藤澤一夫氏上田謙氏が言及されている。また大阪府教育委員会も、蓮光寺の南壁の改修に際して断面の観察調査等を実施している。この時の調査では、白鳳期以後、平安中期に至る多くの瓦が出土している。また寺内にもかっての東野廃寺のものと思われる塔心礎が残されており、七堂伽藍を並べたというかっての面影を今に伝えている。しかしながら、この付近では大正時代に瓦を焼くために、粘土の採取が盛んに行なわれ、蓮光寺の境内以外は大きく掘削されている。現在、蓮光寺と本調査区の間には、約1mほどの地盤差があるが、これは大正時代に土取りによって作られた段差である。よって本調査区において1m×20mのトレンチを掘り、断面の観察を行なったが、いづれも地山を掘り込み、それを整地して水田化したもので、旧米の地盤は残存していないかった。遺構ももちろん観察できなかつたが、ただ水田の耕土中より、何点か瓦が出土している。これらは旧地盤の掘削時などに耕土に混入したものと考えられる。これらのうち圓化したのは、軒丸瓦一点のみであった。この軒丸瓦は口径13.5cmの巴文の周囲に連珠がまわるもので、室町期の所産と考えられる。その他の平瓦も概ね同時期のものと考えられる。これまでの研究では中世以降の東野廃寺の盛衰は明らかではなかつたが、今年度の調査結果は、時代の空白を埋めるものとなるだろう。



図5、調査地位置図（左→東野廃寺、右→狹山神社遺跡）

4. 狹山神社遺跡

(90-1区)

大阪狹山市大字半田1丁目230所在。調査地は延喜式にも記載された古社、狹山神社の境内に南接する。狹山神社遺跡については、東側の森林（宮山）より瓦が出土することが古くから知られていた。大阪狹山市教育委員会も、この遺跡の性格を明らかにするため、昭和63年度に測量調査を、また平成元年度に部分的な試掘調査を実施している。その結果、平安期にこの地に寺堂が存在したことを示す数多くの瓦などとともに、南北朝から室町期の遺物も出土している。また神社裏山には一辺約60mの土壘がコの字型に回っていることが、測量調査等によって明らかになり、城館的な遺構が存在したことが推定されている。しかしながら神社周辺部における調査はほとんどなされておらず、遺跡の全体像については依然謎は残されている。今回の調査は神社の南側の水田面に3m×3mの調査区を設定して行なった。厚さ10cmの耕土を除去すると、水田床土であったと考えられる灰黄色砂質土が出る。その下の灰褐色砂質土、明灰色粘砂土は、須恵器の包含層であり、その下の灰色粘砂土は土師器の包含層となっていた。須恵器は甕、壺の細片が中心であり、また土師器も壺の細片が中心である。細片であるため明確ではないが布留式の土師器であると考えられる。周囲の土からの湧水が激しく、平面的に遺構を検出するには至らなかったが、断面を観察する限り、これらの地層は水田面であったと考えられる。また狹山神社遺跡において、古墳時代の遺物が出土したのは今回が初めてであり、この周辺に古墳時代の水田址、集落址が存在することが確実になった。これまでから言われてきた神社、寺院、あるいは城館という性格の他に、古墳時代の集落址という性格が本遺跡に付加されるわけで、遺跡の範囲も含めて、狹山神社遺跡の性格を見直す必要があるだろう。

5. 茅草木北遺跡

(90-1区)

大阪狹山市茅草木6丁目817に所在。茅草木は現在狹山ニュータウンとなっている丘陵の東側に、長さ4kmにわたって南北に連なる街村で、集落の中心を西高野街道が走っている。調査区は高野街道より少し西側に位置しており、長く畑として利用されていた。建築計画を考慮して、2.6m×4.3mの調査区を設定し調査を実施した。その結果約30cmの厚さを計る耕土と、明茶色シルトの層を除去したところで、茶灰色粘土からなる地山層を検出し、この面が遺構面となっていた。遺構としては、調査区東北部において落ち込みを、また調査区南西部において溝を検出している。また東北部の落ち込み内部からは、直径55cm、深さ30cmの小土坑を検出した。この小土坑は非常に正確な正円形の平面形を持ち、底部は漆喰によって固くしめられていた。恐らく便壺などの壺をこの穴に据え付け長く利用した後、壺を抜いたものと考えられる。遺物としては、包含層中より近世の染付、瓦などが出土している。

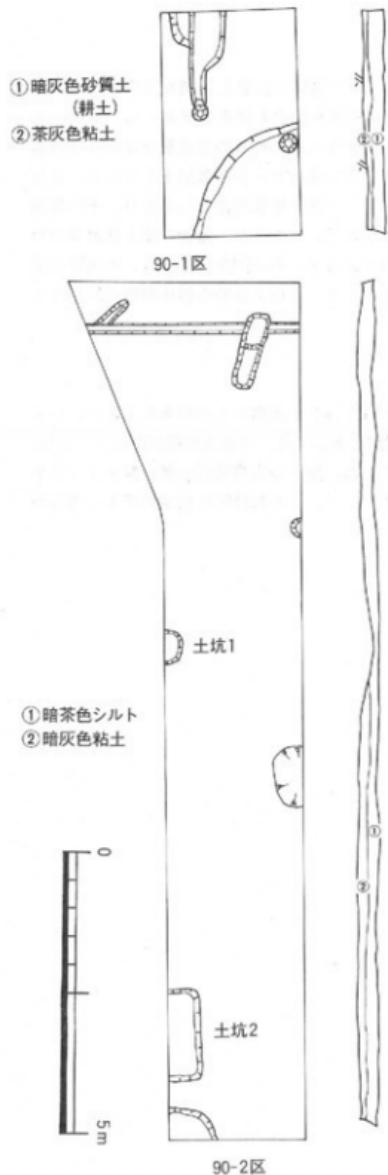


図6. 茅黄木北遺跡90-1区
90-2区平面図断面図



図7. 調査地位置図(茅黄木北遺跡)

(90-2区)

大阪狭山市茱萸木6丁目822に所在。90-1区のすぐ東側に位置し、調査区の東端は西高野街道に面している。東西方向に17.5m×2.5mの調査区を設定し調査を実施した。遺構としては小規模な溝、土坑などを検出した。遺構面は現表土から20cm程度の包含層を除去した地層に所在しているが、包含層中からは近世の所産である瓦、染付などが多数出土している。90-1区との関係については、西高野街道に面した90-2区が屋敷地部分にあたり、その裏側にあたる90-1区が屋敷地背後の菜園として利用されていたことが、遺物の出土状況等から考えられる。茱萸木新田は元禄時代に開かれた新田であるが、新田開発当初より、西高野街道に面して住居を建て、その背後に耕地を開いていくという、新田に独特の居住形態が取られていたことをうかがい知ることができよう。

6. まとめ

本年度の調査はいづれも個人住宅建築に先立って行なった小面積のものが多かったが、いくつかの知見を得ることができた。ことに狭山神社遺跡においては、布留式土器が出土しており、これまで須恵器生産地としての性格だけが知られていた、狭山の古墳時代の歴史像をより豊かにすることが可能となった。今後の継続的な調査によって、より具体的に地域の歴史を明らかにすべく努力したい。

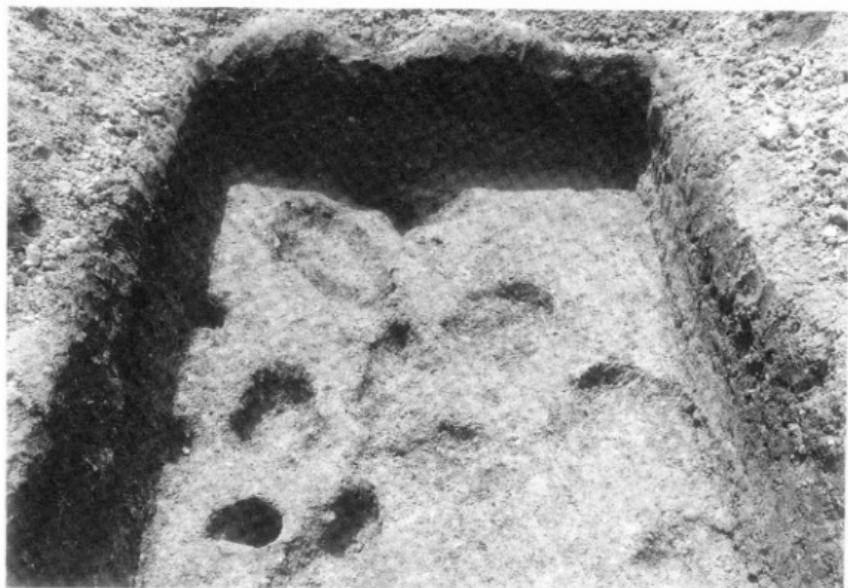
図 版

図版1 航空写真（大阪狭山市内）

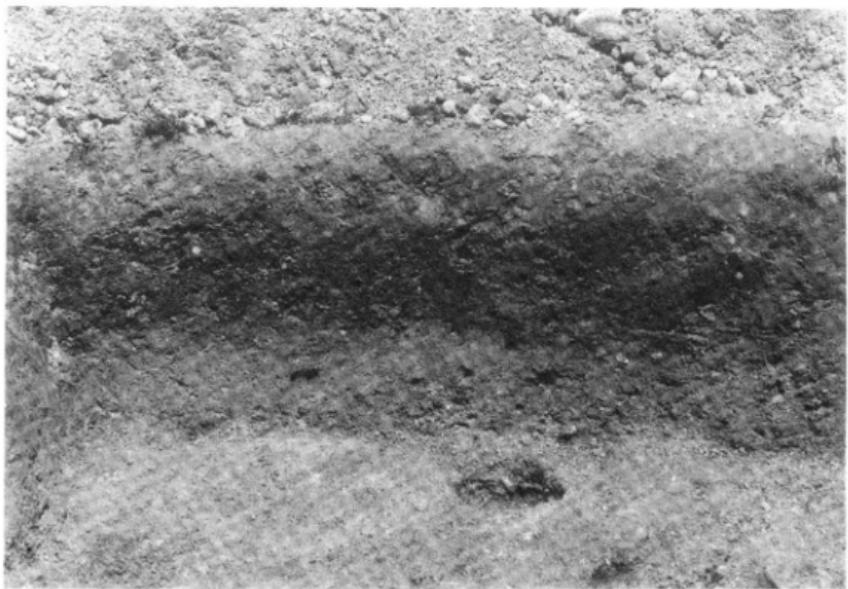


図版2 航空写真（狭山神社付近）





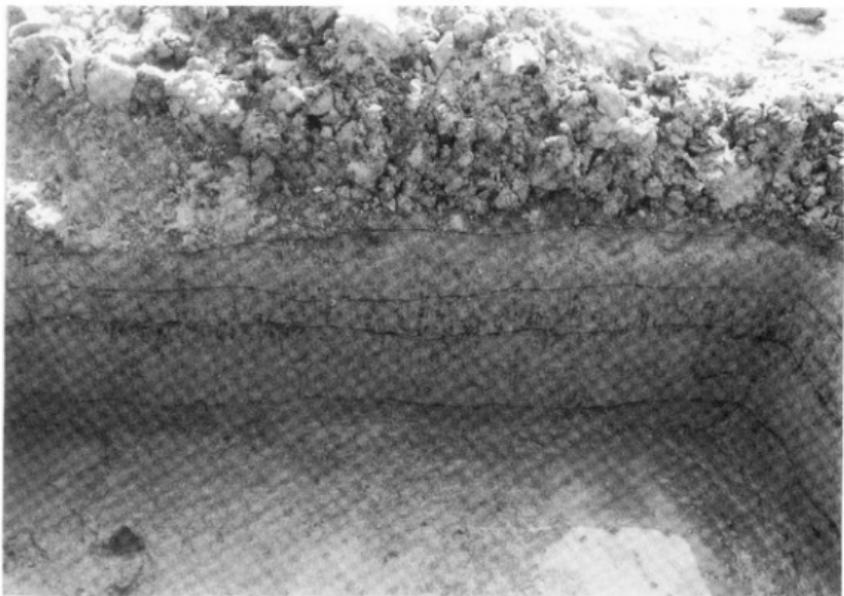
a. 池尻城跡 90-2区



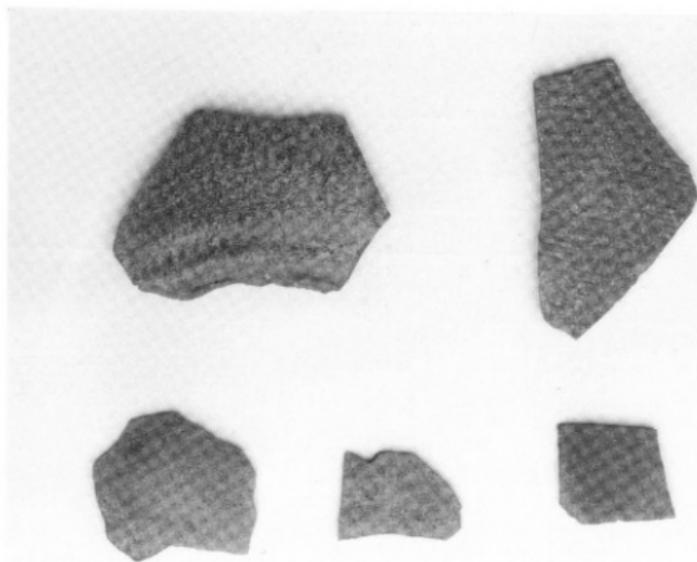
b. 池尻城跡 90-2区 断面



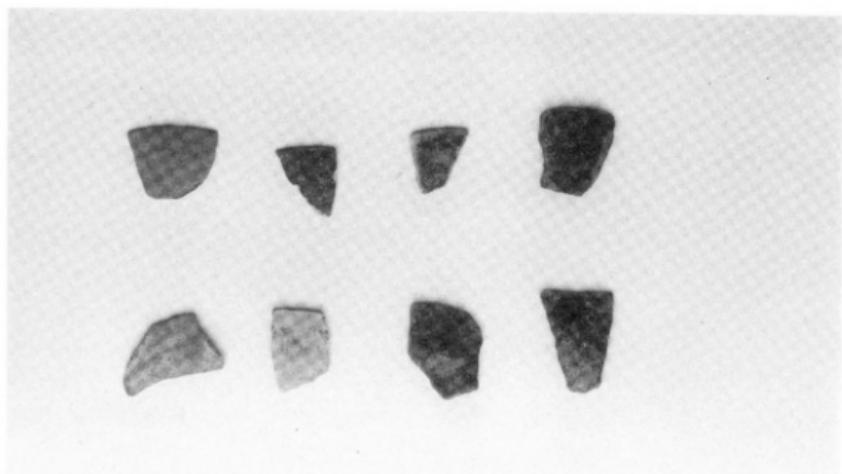
a. 池尻城跡 90-1区



b. 狹山神社遺跡 90-1区 断面



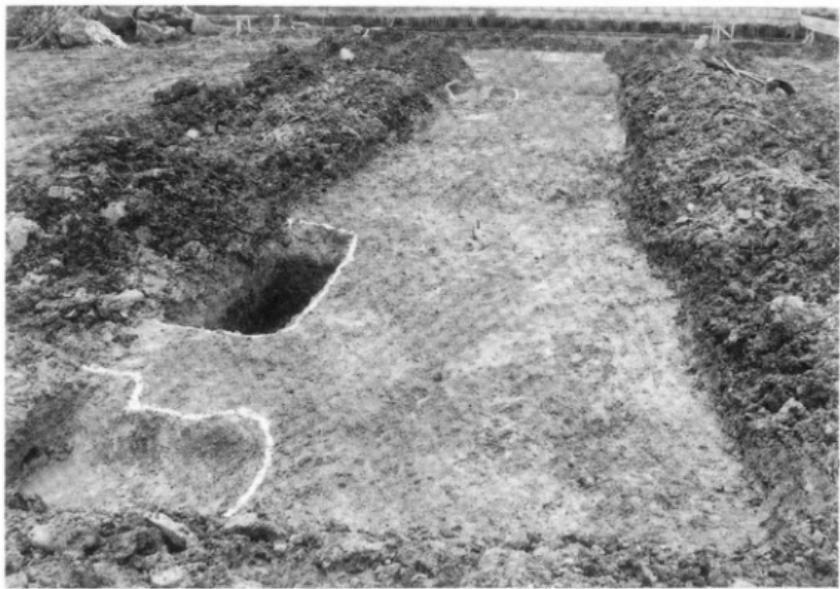
a. 狹山神社遺跡 90-1区 出土遺物(古墳時代)



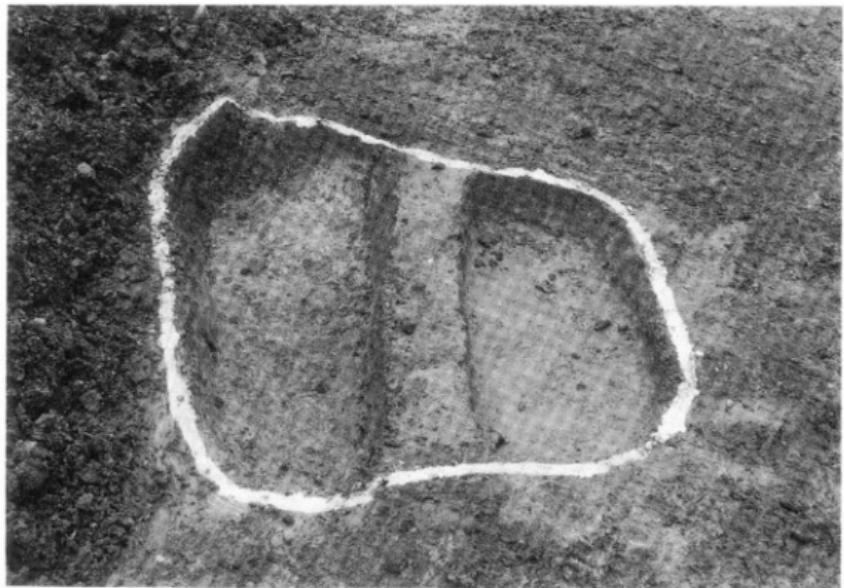
b. 狹山神社遺跡 90-1区 出土遺物(中世)



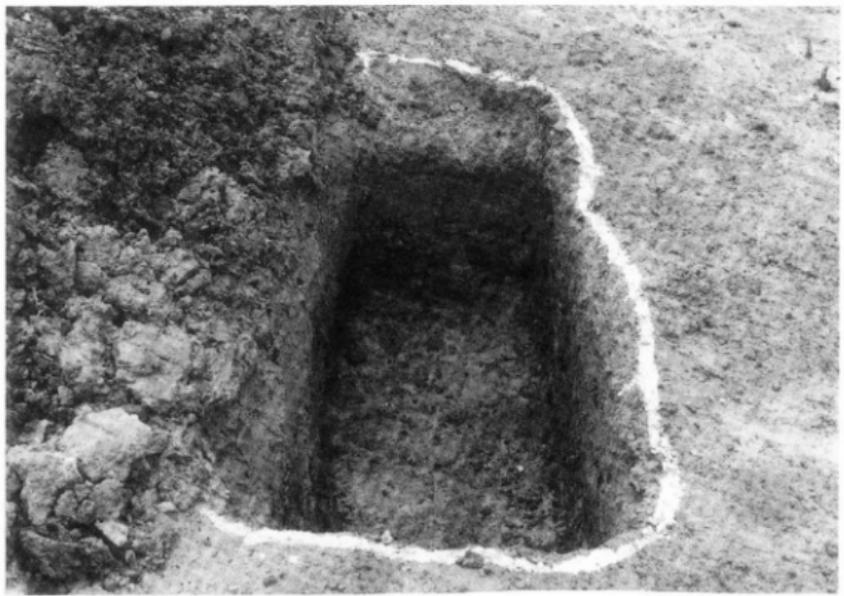
a. 東野廃寺 90-1区 出土遺物(丸瓦瓦當)



b. 茉萸木北遺跡 90-2区



a. 茱萸木北遺跡 土坑1



b. 茱萸木北遺跡 土坑2

大阪狭山市文化財報告書4

大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書

発行日 1991年3月31日発行

発 行 大阪狭山市教育委員会

印 刷 橋本印刷株式会社

